

# 占領軍の鳥取県内進駐に関する整理メモ

2019/05/25 県史編さん室 西村

## 1 実行部隊 (Tactical Troop)

[県側の受入準備]

- 45.9.13 中国総監府（広島）で進駐軍受入協議。鳥取県から森本警察課長出席。県庁内に「県連絡本部分室」を設置（倉光総務課長以下職員 16 名。総務係・宿営係・物資係）
- 45.10.16 「連合軍進駐協力隊動員要綱」制定（鳥取 5000 人、米子 6500 人/日動員予定） ※以上『鳥取県警察史』

### 岩倉兵舎（米軍→英連邦インド軍）

米軍

- 45.10.28 米第 6 軍第 10 軍団第 24 師団情報官ラスボン中佐一行 6 名米子到着。県内巡視（県庁、飛行場、道路、港湾、大山）。11.6 離県。
- 45.10.29 岩倉兵舎の接收のため同師団第 21 聯隊オスボン少佐 Major Henry H.Osborne 以下 197 名が鳥取駅に到着。事務所は県庁内、宿舎は岩倉兵舎。11.15 離県。

英連邦軍

- 46.04.25 英印パンジャブ聯隊第 5 大隊先遣隊 110 人が到着し岩倉兵舎跡に進駐。
- 46.05.20 英印パンジャブ聯隊第 5 大隊本隊？人が到着
- 47.08.15 インド独立のため 8 月 30 日呉から帰国

### 美保航空基地（米軍→英連邦空軍）

米軍

- 45.11.02 元海軍美保基地の接收準備のためコード代将が米子到着。
- 45.11.03 元海軍美保基地の接收準備のためウォーター中将・ガ〇〇軍曹が米子到着
- 45.11.12 第 10 軍団第 24 師団第 3 聯隊バーン大佐以下 160 名が進駐。

英連邦軍

- 46.03.30 英連邦航空隊先遣隊 10 人が到着
- 46.05.20 英連邦本隊（クリスティ大佐）が進駐（米軍は熊本に移駐）  
イギリス空軍第 11 飛行中隊・第 17 飛行中隊、インド空軍第 4 飛行中隊
- 48.04.01 第 34 豪歩兵旅団が管轄（常駐せず）→48.05.07 米軍に引渡し

### 食糧供給部隊

- 46.04.21 英印補充部隊米子第 56 印度混成中隊が永興産業株式会社を接收（島根・鳥取駐屯英印軍食糧供給部、トイードル大尉）

### 憲兵隊

- 46.05.10 英空軍第 22 憲兵隊（保安部）米子分遣隊が米子経済部を接收（第 76 英国調査保安部）

## 2 情報部 (対敵諜報部 Counter Intelligent Corps ; CIC)

- 米軍 45.10.29 事務所を県庁・観光ホテルに置き事務を開始。46.04.03 木村清一居宅を接收（5.21 移転）。隊長ニシミ少尉（47.4 現在）
- 英軍 鳥取城二の丸に事務所。マイケル・スクリーチ Michael Screech が赴任。

### 3 軍政部 (Military Government)

鳥取軍政部の活動時期区分

時期	[第1期]	[第2期]	[第3期]
期間	45.12-46.6	46.7-49.6	49.7-49.11
体制	軍政中隊	軍政部	民事部

[第1期] 1945.12-1946.6

・軍政の準備

- 45.12 下 オスボン少佐が第76軍政中隊(鳥取・島根)付となり鳥取分遣隊を指揮。スタッフは将校6名・下士官16名。
- 46.1.10 県庁内駐屯事務を開始
- 46.02 第76軍政中隊鳥取分遣隊は第36軍政中隊(岡山)に編制替えとなり、鳥取にサリバン大尉 Captain J.B Sullivan と4人の下士官が着任。
- 46.3.18 軍政事務所と宿舎をベネット氏 Mr.Bennet 所有の元宣教師宅(後に鳥取市西町柴田俊太郎宅: 県史)へ移転。
- 46.6.28 サリバン大尉がアリマ中尉 Lt James K.Arima と交代。

[第2期] 1946.7-1949.6

- 46.7.13 第36軍政中隊からアリマ中尉と6名の下士官が派遣される。9日後の(7.22)にノーラン少佐 Major Willis Nolan が軍政隊長として着任。
- 46.7-8 軍政部職員増員。事務所を大日本教育会鳥取支部(教育会館)2階へ移転。
- 46.12 モータープールを設置し鳥取軍政隊の完成
- 47.01 将校の住居を上町の邸宅に移転。下士官居宅(元宣教師邸)は5月4日の火災で焼失したため(情報部が入っている)観光ホテル2階に移転。
- 47.05.31 ヴァンダーツィープ中佐 Lt Col Phillip J.Vander Zwiiep が軍政隊長に着任
- ※47.06 以後軍政部隊の家族が続々と来県し上町地区の邸宅を接収。占領期間を通して米国人と英国人は協力的でBCOF地域(?)においても共同作業を実施。
- 48 冬 49年にかけて大規模な人事異動。48.11.13 ヴァンダーツィープ中佐はZI(?)に急遽帰還し、後に配置換えとなったメイヤー少佐 Major C.B.Myers が11.13まで指揮をとる。
- 49.01 家族用の新しい住居4棟が完成。全部で10軒の将校家族と5軒の下士官家族が駐在。いずれも適度な家具と設備のある快適な住居で、余暇施設も徐々に改良。毎週の食糧補給列車の運行が食糧生活を改良し、隔月のFX train(配給列車)が一イベント。

[第3期] 1949.07-1949.11

- 49.07 鳥取軍政部 the Tottori Military Government Team は、鳥取民事部 the Tottori Civil Affairs Team に再編された。

※49年の主な活動は、衆議院議員選挙の監視、主要食糧流通計画の監視、税徴収制度の監視、経済安定9原則の履行を促すための日本人への指示・奨励。鳥取県内の共産党支持者は約20%、左翼主義者や労働組合による目立った暴動の例は見あたらず、散発も日本側当局によって統制。

※49年夏の終わり、同年末までにほとんどの部隊が帰還することが伝えられ、10月19日に発出された第8軍指令部一般指令第147号により11月30日の24時まで活動停止するよう求められた。急ぎ人員の移動が開始され、11月30日にはすべて不在となった。

※11月中はわずかな残留メンバーが不動産や財産や記録類の処分におわれた。11月30日以後はセンシング中佐 Lt Col Donald M.Sensing、アントレキン中尉 Lt William W.Entrekin、クルーガー氏 WOJG August F.Krueger が TDY(?)に残り、活動停止、記録類の仕上げをした。